

# ひと

## 小林 美穂子さん (52)

「ステイホーム」と言われても、家のない人はどうしたら—。一般社団法人「つくろい東京ファンド」のスタッフとして、ネットカフェで寝泊まりできなくなったり、仕事を失ったりした「ワーキングプア」らを支援している。

自宅がなくネットカフェと路上を歩き来する若者は、「一見して困窮しているように見えな

い」こともあり、支援の網から漏れることがあった。専用のメール相談の窓口を設けると、続々と「SOS」が届くようになり、4月の緊急事態宣言以降、延べ360件を超えた。

生活保護申請のため役所の窓口に同行しても、追い返されそうになる経験が数多い。担当者が対応件数を増やそうとしないため、「水際作戦」とも呼ばれ

る。「福祉事務所の対応は高圧的で、生命を守る仕事という自覚がない」とコロナ禍でも変わらない生活保護行政に憤る。

いろいろな出会いを求めて国内外で仕事をする人生を送る中、貧困問題を身近に考えるようになったのは40歳の時。中国・上海で語学を学んでいた2008年末に「年越し派遣村」をテレビで見た。帰国して困窮者支援団体のインターンに参加して活動にのめり込み、「人生ががらりと変わった」。

福祉事務所との応酬など日々の活動をまとめ、11月末に「コロナ禍の東京を駆ける」(岩波書店)を出版した。「貧困に対する世間の不寛容や自己責任論に一石を投じたい」と、支援が行き届く社会の実現を願う。

文・遠藤拓

写真・内藤絵美

2020.12.1

愛猫の「サヴァ」と「梅」に癒やしてもらうことがストレス解消法。夫は稲葉剛・つくろい東京ファンド代表理事。

